

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000019		
法人名	医療法人柳川滋恵会		
事業所名	グループホーム春		
所在地	福岡県柳川市西浜武1085-1 (電話) 0944-72-2211		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 29 日	評価結果確定日	令和 4 年 2 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成18年6月に開設。今年で15年目を迎える2ユニットのGHです。今年度感染予防と清潔保持を目的に居室を畳からフローリングに変更しました。また壁の貼り替えも順次行っている。敷地内には医療機関、介護老人施設があり、医療面、防災面など連携し安心安全に生活出来る環境にある。食事面では管理栄養士の元でバランスの取れた食事をされており、又おやつも手作りがあつたりと充実している。利用者様とは、スタッフと共に学習療法、塗り絵、折り紙、花畑を作ったりと職員とコミュニケーションを取りながらゆっくり楽しく過ごして頂いている。利用者様に「のんびり楽しくその人らしく」の理念を元に楽しく過ごして頂けるよう努めてまいります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 12 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は平屋作りで、隣接して老人保健施設がある。日当たりの良い環境で日常を過ごすことができる。隣接する医院の看護師による訪問や看取り介護の実践、医療的管理が必要な利用者の受け入れもあり、医療体制が整っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で家族の心で共に支え合い暮らしていく基本理念を事業所全体で共有している。認識を深める為に毎朝職員で唱和している。	職員は朝のカンファレンス時に理念を唱和して意識を高め、実践に向かっている。利用者とは家庭的な関係を築き、日常を楽しく過ごしてもらえるように共有した考え方で、日々の業務に努める姿勢がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常な交流は少なかった。運動会や敬老会等家族参加はなかったが、家族には行事の写真や日常生活、日頃の生活状況等を説明している。	コロナ禍のため、地域と交流する機会が日常的にない状況であるが、近隣の保育園児が窓越しから手を振ったり、花を持参してくれたり、関係性を保っている。今後は認知症カフェや地域、事業所の行事が再開できれば、参加する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献は出来ていないが今後イベント等を通じて地域との交流を深めていきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な報告を行い現場での大変も理解して頂いて意見を現場でのサービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議の構成員は幅広く、家族や行政職員、地域の住民代表の他に、ボランティアや警察署職員が名を連ねる。現在は委員会活動報告やヒヤリハット報告、入居状況、感染対策などの内容を書面にて各委員へ報告し、意見を求めている。今後は意見の集約方法を検討し、さらなるサービス向上に活かす予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員が出席しホームの現状や情報を共有し連携を図っている。	法人や管理者は、日頃から行政に入居相談や制度に関する連携を行い、サービス向上につながるよう取り組んでいる。今後は行政から地域に貢献できるよう働きかけがあれば、取り組む予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を重ね周知徹底に努めている。離脱傾向のある利用者様もあり、その場に応じた見守りや対応を行い見過ごされる事がないように職員全員で慎重に検討している。	身体拘束をしないケアを実践するために、介護事故予防の観点も含め、危険予知訓練を実施したり、ベッドからの転落防止のためマットレス対応など実践している。玄関や居室、庭の出入り口は日中施錠はしない。外出意向があれば、声掛けや付き添いで対応し、利用者の思いに寄り添う支援を目指している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束に向けた取り組みとして毎月チェック表にて虐待が日常的に見過ごされていないか確認し事業所全体で防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度への重要性を理解するように学習の機会を設けている。成年後見制度を利用中の利用者様は1名おられる。	職員に対して権利擁護研修を開催し、理解を深めている。利用者家族へ制度説明が行われていないため、関係機関へ橋渡しができるよう説明する機会を設ける予定である。	利用者の権利が守られ、安心した生活を獲得するためにも、利用者・家族等に対して権利擁護に関する制度の説明ができる体制の確立を期待する。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族にとって重要な説明であるので、分かりやすく説明するように心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は来設時に話す機会を設け近況報告を兼ね意見や要望等聞き出してホームの運営に活かしている。今は面会の機会も減っているので電話での報告も多くなっている。	利用者からの何気ない発言を大切に、ケアの方法や花植え、散歩などアクティビティ支援に繋いだ事例がある。家族の意向確認は電話連絡が多いが、週1回の窓越しの面会時に要望など直接聞きとり、運営に反映する姿勢がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング日々の業務の中で職員の気づきや心配事を話し合い速やかに解決に繋げサービスの向上を図っている。	各ユニットの会議や合同会議は不定期に開催している。職員の業務に対する意向や相談、利用者支援方法など、日頃から申し送りノートに記載し情報共有され管理者へと繋いでいる。管理者は方針に則り、アイデアを採用し、業務改善、レクリエーションの企画に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境整備に努めている。各自が健康管理を行いやりがいを持って働けるように全体整備に努力されている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	基本的に福祉現場で働く熱意や人柄を重視し採用は平等に実施されている。研修参加で長期的自己実現出来るように配慮している。	法人から職員の希望や能力、キャリアアップを目的とした配置転換、資格取得のためのソフト調整や受験料補助などの支援がある。職員の自己研鑽のために市中の感染状況など考慮して適切なタイミングで外部研修へ参加予定である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間の勉強会を予定に入れ繰り返し勉強が必用と考えている。施設従事者として日常的に啓発意識向上を図っている。	一部の職員が介護の基礎に関する外部研修に参加し認知症高齢者について学んでいるが人権として特化した研修ではない。管理者のみ法人の管理者研修会で人権について学んだ。今後は事業所職員が学習できるように企画することが課題である。	様々な人権について全職員が統一した見解で支援できるよう、人権教育や啓発活動等の教育体制を確立することを期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験者の職員には資格習得の為研修や経験がない職員には介護基礎研修を受講し働きながら、介護の実際を把握し経験を積んでもらう事で職員のスキルアップに繋がると考えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて研修には時々参加しているが相互活動の交流はない。情報収集等訪問交流を図って行きたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人に面会し気持ちや意向の確認をしている。安心されるように話をさせて頂き良好な関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には不安も大きいので、家族の思いを十分に受けとめ安心して利用出来るように関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初は環境の変化に配慮し本人家族が安心できるように努めている。また早い段階で必要とする支援を他関係機関と連携を図り情報収集に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に過ごす事で理解を深め共に支え合う関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で直接は会えず窓越しの面会で対応している。顔を見るだけでも安心してはられる。電話で声を聞いたりまた携帯をお持ちの方もおられるのでその都度対応している。どのような状況においても本人様と家族の絆が途切れないようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内の老健施設からの利用者様も多く顔なじみの方もおられ話が弾む場面もある。以前からお世話になっているPTやOTの職員が時々訪問して様子を見に来てくれている。これまでの繋がりが途切れないように努めている。	職員は馴染みの関係性を把握するためフェイスシートで確認し実践を目指している。持ち込みの携帯電話やはがきで親族への連絡は継続できている。家族や知人の面会は窓越しで行うことで関係性が維持できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方や理解力低下の方もおられる。利用者様同士のコミュニケーションは乏しく職員が間に入り孤立されないように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時より関係を大切に付き合い退居後も継続出来るように支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心身の状況、生活歴を利用者様、家族から聞き取り記録を整備している。日頃の関わりから思いの把握に努めている。	日頃より利用者に声かけをして、要望や思いを確認している。意思疎通が難しい利用者に対しては、表情や仕草から思いをくみ取ったり、家族から情報を得るようにしている。花が好きな利用者のために庭に花を植えたり、炭坑節が好きな利用者と一緒にレクリエーションで踊る等、利用者の思いに沿った支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様のこれまでの暮らしぶり等聞き取り把握しサービス支援に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康面、心身の状態等毎日の生活ぶり等現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題提起、現状から見た課題を出し合い現状に即した介護計画作成に努めている。	本人や家族、職員・看護師、必要に応じて医師や関連病院の理学療法士・作業療法士の意見を取り入れて、介護計画を作成している。家族に介護計画を説明し、署名・押印をもらっている。3か月に1回、また、必要に応じて介護計画の見直しをしている。介護計画の見直し後は家族に説明をして同意をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康管理や状態観察等、暮らしの中での気づきは看介護記録に記録し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変化するので、その時々合ったサービスを柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしく生活して頂くために地域の方々と何が出来るか前向きに取り組んでいきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族には利用契約時に十分な説明を受けかかりつけ医を決定されている。専門医受診は家族に受診をお願いしているが必要時は付き添い、状態説明等連携を図り支援している。	利用開始時に今までの受診経過や受診希望を確認している。協力病院の往診に変更されることが多い。今までのかかりつけ医受診の場合は、家族に受診を依頼している。初回受診時は職員が付き添い、家族のみ受診付き添いの場合は情報提供をしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見早期治療を基本とし法人内の医療機関と連携をとり支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は不安がないようにかかりつけ医や事業所から十分な説明を行い本人や家族の相談に務めている。また日頃より他医療機関とも連携し相談や情報交換に務めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急速な重度化があるので医師の説明は早い段階で行い変化時に説明している。家族の意向を共有し医師の指示のもと支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されており、家族に事業所が対応できる支援方法を含めて、利用開始時や折に触れて説明している。利用者や家族の意向を大事にしながら、状況変化に応じて、家族・職員・医師で話し合い、方針を共有している。協力病院の医師は、24時間いつでも往診可能で、夜間は関連病院の看護師が巡視にくる体制がある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間のレベルに幅があり学習会等で繰り返し実践力のレベルアップを図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回（昼と夜間想定）利用者様参加のもと避難訓練を実施している法人内消防署への連絡体制を築いているが地域参加は乏しい。	災害対策のマニュアルは作成されており、事業所内に非常用食料や備品を準備している。避難訓練は年2回、夜間想定で、避難経路の確認・消火器の使い方を実施している。コロナ禍のため、地域住民や消防署への声かけはしていないが、状況を見て協力依頼する予定である。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる対応や悪い言葉使いは、その場で注意し合い問題提起し改善に努めている。	トイレ時はドアを閉める、職員の申し送りは、入所者の前ではしない等、利用者のプライバシーに配慮している。朝礼でプライバシーの確保について話をする機会を設けたり、管理者は日々の関わりで、職員の対応で気になることがあれば、その都度職員に個別で指導をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出や自己決定が困難な方も多く毎日の表情や行動を見守り働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課の流れはあるが職員の都合や決まり事を優先するのではなく一人一人のペースに合わせ寄り添う支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解力のある利用者様には自分で決めてもらい他の利用者様は季節や体調に応じてその人らしい身だしなみが出来るように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の機能低下により一緒に力を発揮する事は困難である。洗濯物をたたんでいたり無理せず出来る事をお願いしている。	関連施設の厨房で調理された副食を、利用者の状況に応じて刻みやミキサーにしている。汁物と主食は事業所で作っている。料理検討委員会で、利用者の食事の要望を伝えている。月に1回、お茶会があり、利用者が食べたいお菓子や地域のお菓子を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供出来ている。栄養面での低下が見られる方はカロリー飲料を補足し体調を維持している。摂取量や水分量をチェックし健康管理に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後準備し自力、一部介助で口腔ケアを行っている。自力の方でも義歯洗浄は確認し不十分なところは介助を行い清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェック表に記録し一人一人の排泄パターンを把握している。トイレで排泄する事を基本とし利用者様の表情や仕草等見守りながら声かけ誘導行い排泄支援に取り組んでいる。	職員は利用者の排泄パターンやトイレに行きたい時のサインを把握し、トイレで排泄が出来るように支援している。排泄の失敗があったときは、周囲の利用者に気づかれないように居室やトイレに誘導し、必要に応じてシャワー浴をしている。利用者の排泄パターンや状況に応じて、パットの種類や使用する時間帯の見直しをしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、腹部マッサージ等体操や運動をレクリエーションに取り入れている。便秘傾向の方は医師の指示で内服や座薬のコントロールを行い健康管理を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本としている。利用者様の希望やその日の状態に合わせて支援し安心して入浴できるように努めている。	月曜日から土曜日まで入浴できるように準備しており、日曜日はシャワー等で対応している。浴槽に入ることが難しい利用者はシャワー浴で対応している。冬至にはゆず湯をする等入浴を楽しんでもらうようにしている。入浴を望まない利用者には、時間や職員を変えたりして対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠と日中活動されるように生活のリズムを整えるように取り組んでいる。中途覚醒や不眠が続く時は医師に相談している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は毎回担当者が行っている。個々に説明書があり内容を確認できるようにしている。職員はきちんと理解、確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割を持っておられる利用者様は少なく負担に感じない程度でお願いしている。家族面会は今は窓越での面会だが楽しみで共通して気分転換になっている。未だ外出は控えているが敷地内を散歩したりベランダに花を植えたりして気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で未だ外出を控えている。	天候がいい時期は、週1~2回散歩に行っている。以前はコスモスや桜・菊等、季節に応じた花見、3月にはひな祭り・さげもんめぐりを見に行っていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持管理は困難になられており使う事はなく金銭の預かりはしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話希望時は取次対応している。携帯電話をPもいの方もおられ自分で必要時に電話されている。手紙やハガキ等は本人に手渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節に応じた装飾を行いまじめに空調し感染予防に努めている。車椅子に移動時には安全も配慮し音、光、臭いに不快な思いがないように配慮している。	リビングは明るく、季節の花が飾ってある。利用者と一緒に作成した貼り絵等の飾り物で、季節感を感じることができる。光が強い時期はカーテンで調整している。居心地よく過ごすことができるように配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では本人様が居心地よく過ごしてもらえるような居場所の確保と安全面に気をつけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている事を子考慮して毛布やタオルケット、クッション等を家族が持参されている。居室には家族写真を掲示したり本人が好みの椅子や棚を置かれて過ごしてもらえる。	コロナ禍のため、居室の畳はフローリングに変更している。備え付きの収納スペースと洗面台が設置されている。居室の壁には、家族・利用者の写真や手紙、利用者の作品が飾ってある。利用者の好みの筆筒やボックス、テレビが持ち込まれ、利用者らしい居室づくりがなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付けたホームはバリアフリーである。安全面に気を付けて自立した生活ができるように、その人にあった対応を工夫して支援を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でのんびり楽しくその人らしくを基本理念とし理念を共有する為毎朝唱和し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は近隣の小学生の体験学習や保育園の慰問があったが、コロナ渦のため今年は入り口窓越しの対応となった。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献は行えていない。もっと子供会、自治会、老人会、学校との交流、情報発信し認知症の人の理解や支援方法をアピールしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦のため開催できておらず、毎回議事録を発行、関係者に送付し意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ渦のため運営推進会議が開催されていないため、毎回議事録を送付し意見を頂きながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束のチェック表を元に勉強会を開いており、全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の権利擁護推進委員会、ホーム内の勉強会に参加する事で、全職員の理解を深め虐待防止の徹底を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に取り入れ内部研修を行い制度の理解に努めている。現在成年後見人制度利用者は1名おられる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、御理解を経て同意を頂いている。不安や疑問点に耳を傾け柔軟な対応を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問された際又は中々来設頂けない方にはお電話にて近況報告を行い意見や要望を伺っている。また運営推進会議の議事録を送付、ご意見を伺うことで現場に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、カンファを行う事で職員の意見や提案を伺い、現場に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日頃の努力に感謝されている。毎月代表者会議を行い、また幹部を交えた合同カンファを行う事で職場、環境、条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用にあたっては、代表者、法人幹部で面接を決定しており、管理者も面接に立ち合い意見を取り入れて貰っている。また個々の能力が発揮出来るように会話も欠かさず行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月実施している身体拘束のチェック表を元に人権に関する内容も含め職員の意識の徹底を図っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り法人内外の研修に参加出来るように努めている。研修を受ける事でサービス向上に繋がるようにしていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は出来ていない。同業他社が企画している同業者が集まる勉強会に参加して交流を深めていきたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に御本人と面談し、本人の困っている事や意向を確認している。不安がないような関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族の意向を確認し、密に会話し良好な関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初はアセスメントを行い御本人様、御家族の意向を確認して安心出来るような環境作りに努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし理解を深めながら楽しい時間作りに努めている。共に支え合いながら信頼関係を構築している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦の中窓越しの面会、利用者の中には御家族に電話をする事で、家族との絆を築いている。ご家族とは面会時、又は電話にてご本人の状況を伝え安心して頂けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の中御本人と馴染みの人（友人等）の面会はほとんどないが、法人内の老健施設から入所された利用者がおられ、お互い顔見知りにて、仲良くされている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で関係性を築くのは難しいので関係性が構築出来るよう職員が間に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて本人、家族の経過をフォローしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に御本人の心身の状況や生活歴をアセスメントし職員全員で情報を共有している。また日々の関わりの中で本人のケアに通じる支援をしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話の中から個々の生活歴、馴染みの暮らし方をアセスメントしケアに役立てている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で今の心身状態の観察を行い現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員より情報収集し、日々の生活の中で利用者様、家族の思いをくみ取り又個別にケアカンファを通じ介護計画を立てている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で利用者様の心身面、気付きや変化等を看介護記録に記録している。又ケアカンファを通じ介護計画の再構築を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医受診に御家族と一緒に付き添っている。急な受診は職員のみで付き添う事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近隣の保育園、小学校との交流を行い、行事を通じて地域の住民との繋がりもあったがコロナ渦の為出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は契約時にかかりつけ医を決定されている。他科受診の場合必要に応じて職員同行にて送迎や受診の支援を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関より毎日看護師が内服管理、処置等で来設している。緊急時又は異常時には状況を伝え連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、御家族、病院関係者と密に連絡を取り安心して頂けるよう入院生活支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された利用者様には、主治医や事業所の支援についてその都度説明し家族の意向を確認しながら医療との連携を図り支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し全職員に周知している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回（昼/夜間想定）避難訓練を行っている。法人内や消防署への連絡体制は築いているが、地域からの参加はない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、更衣、排泄の対応はプライバシーの徹底をしている。ご利用様を尊重しない声かけや対応にはその都度指導している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様の意思決定に添えるように支援を行っている。又意思疎通が出来ないご利用様には、日々の表情や行動を観察し支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしく」を基本理念に職員の都合を優先するのではなく、個々の希望やペースを大切に支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理美容に来てありカット、顔そりを利用して頂いている。また本人の希望の元洋服選びやオシャレを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やかたづけは困難で一緒に作業する事はないが、行事食やお茶会を通じ旬な食材を使った献立を提供し楽しんで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。食事、水分は記録して必要な栄養水分を確保出来るよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。磨き残しのある方、口腔ケアが自身で出来ない方は介助し、口腔内の清潔保持を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に、個々の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導やオムツ交換を行い失禁等の軽減に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方は温療法や腹部マッサージを行っている。またDr指示の元内服コントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を実施している。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯等季節を感じて頂き楽しんで頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールにてテレビ視聴や、新聞、本を読まれたり塗り絵、計算問題、生活リハビリをされたり様々である。また個別に適度な運動レクリエーションを取り入れて夜間安眠できるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は担当者が行っている。個人用のファイルに薬情をはさみ内容を把握している。また日々症状の変化の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやパンチラベル貼り等簡単なお手伝いをして頂いている。又レクリエーションや会話等の機会を作り気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中外出支援は控えている。天気の良い日は法人内を散歩したりはしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金の所有をされている人はいない。物品購入の依頼時には家族に依頼している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられる。また電話を取り次いだり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は車椅子の移動や利用者の関係性を配慮してテーブルと席を配置している。こまめに空調湿度を調整、また適切な明るさを保てるよう照明、カーテンにて調整している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を配慮して席を配置している。日中はテレビ視聴、塗り絵、新聞を読んだりと思い思いに過ごして頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジオや音楽鑑賞、馴染みの写真等を飾り、居心地よく過ごして頂くよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、居室には移動がスムーズに出来るよう、適所に手摺を設け転倒予防に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		